



日本植物分類学会 ニュースレター

No. 79

Nov. 2020

今号のトピックス

2020 年度の講演会（12/19 開催）のお知らせがあります → 3 ページ
第 20 回大会のお知らせがあります → 5 ページ
会費納入は 12 月末が期限です。ご協力お願いいたします → 10 ページ

目 次

次期（2021–2022 年度）の幹事について	2
お知らせ	
2020 年度日本植物分類学会講演会のお知らせ	3
日本植物分類学会第 20 回大会（オンライン）	
および 2021 年度総会のご案内	5
植物関連雑誌のタイトル紹介	6
会費納入のお願い	10
書評	
岐阜県植物誌	10
会員消息	12

次期 (2021-2022 年度) の幹事について

庶務幹事 海老原 淳

次期 (2021-2022 年度) の幹事が以下の通り確定しました。庶務幹事、会計幹事が交代いたしますので、2021 年 1 月 1 日から連絡先が次のとおりに変更されます。お間違えのないようご注意ください。

事務局・庶務幹事 (会務全般)

西野 貴子 (にしの たかこ)

〒599-8531 堺市中区学園町 1-1

大阪府立大学大学院 理学系研究科

電話 / ファックス : 072-254-9754

電子メール : jimu_at_e-jsps.com (_at_ を @ に置換してください)

会計幹事 (入会申込, 住所変更, 退会, 会費納入, 購読申込など)

國府方 吾郎 (こくぶがた ごろう)

〒305-0005 茨城県つくば市天久保 4-1-1

国立科学博物館 植物研究部

電話 / ファックス : 029-853-8423/029-853-8998

電子メール : kaikei_at_e-jsps.com (_at_ を @ に置換してください)

図書幹事 (バックナンバー・文献閲覧の問い合わせ)

藤井 俊夫 (ふじい としお)

〒669-1546 兵庫県三田市弥生が丘 6 丁目

兵庫県立人と自然の博物館 自然・環境再生研究部

電話 / ファックス : 0795-59-2001

電子メール : tosho_at_e-jsps.com (_at_ を @ に置換してください)

ニュースレター担当幹事 (ニュースレター原稿送付先)

山本 薫 (やまもと かおる)

〒238-0016 横須賀市深田台 95

横須賀市自然・人文博物館

電話 / ファックス : 046-824-3688/046-824-3658

電子メール : newsletter_at_e-jsps.com (_at_ を @ に置換してください)

ホームページ担当幹事 (ホームページ・メールニュースに関する問い合わせ)

阪口 翔太 (さかぐち しょうた)

〒606-8317 京都市左京区吉田二本松町

京都大学大学院 人間・環境学研究科

電話 / ファックス : 075-753-6796/075-753-6694

電子メール : hp_at_e-jsps.com (_at_ を @ に置換してください)

お知らせ

2020 年度日本植物分類学会講演会のお知らせ

講演会担当委員 布施 静香

2020 年度の日本植物分類学会講演会を次のとおり大阪学院大学で開催いたします。新型コロナウイルスの感染拡大防止対策として、受付での検温、手指のアルコール消毒、間隔をあけての着席をお願いします。林一彦先生がお世話くださる講演会場は十分な広さがあります（定員 288 名の階段教室）。皆様お誘いあわせの上、ぜひご参加ください。今回は、2020 年度日本植物分類学会賞（第 19 回学会賞、第 14 回奨励賞）の受賞者を含む、6 名の先生方にご講演いただきます。

今後、新型コロナウイルスの状況が悪化した場合には、やむを得ずオンライン開催に変更する場合があります。オンライン開催への変更は、本学会のホームページとメールニュースでお知らせします。オンラインで講演会に参加するための詳細情報（URL 等）につきましては、メールニュースでお知らせします。開催形態の変更の有無をホームページやメールニュースでご確認いただけない方につきましては、本案内末尾の問い合わせ先までご連絡ください。ご協力とご了承のほどよろしくお願い致します。

【日時】2020 年 12 月 19 日（土）午前 10 時～午後 5 時 15 分

【プログラム】

10:00-10:05 ご挨拶 伊藤 元己（会長）

10:05-10:50 李 忠建（京都大学）「ツユクサ科植物の世界一系統で見直す多様性と分類」

10:50-11:50 堀 清鷹*（高知県立牧野植物園）

「シダ植物の無配生殖種における網状進化の解明と分類学的整理」

(11:50-13:10 昼食)

13:10-14:10 山本 将也*（兵庫教育大学）「岩に生えるサクラソウの進化史・生態・保全」

14:10-14:55 志賀 隆（新潟大学）「モンゴル探訪記：大陸の水草を求めて」

(14:55-15:10 休憩)

15:10-16:10 綿野 泰行**（千葉大学）「分子マーカーが描くパターンに耳を傾ける」

16:10-17:10 高橋 弘**（岐阜大学）「植物誌から見てきた岐阜県の植物相における特徴」

17:10-17:15 ご挨拶 林 一彦（大阪学院大）

（奨励賞*、学会賞**）

【講演会場】大阪学院大学 2 号館地下 1 階 2 号教室（02-B1-02 教室）

〒564-8511 大阪府吹田市岸辺南 2 丁目 36 番 1 号（電話：06-6381-8434）

※オンライン開催に変更した場合は、大阪学院大学では開催しません。

【会場までのアクセス】

JR 東海道本線岸辺駅、阪急京都線正雀駅から大阪学院大学までともに徒歩 5 分。

交通アクセス <http://www.osaka-gu.ac.jp/guide/campus/access.html>

キャンパスマップ <http://www.osaka-gu.ac.jp/guide/campus/index.html>

【その他】

大阪学院大学で開催する場合は、事前の参加申し込みは不要です。直接会場へお越しください。参加費は無料です。過密を避けるため、今年度はティーサーバーを設置しません。飲み物等につきましては各自ご持参ください。講演会終了後の懇親会は新型コロナウイルス感染拡大防止のため自粛いたします。

【講演要旨】

「ツクサ科植物の世界一系統で見直す多様性と分類」

李 忠建（京都大学大学院理学研究科）

日本には、ツクサやイボクサ、ヤブミョウガなど、5 属 12 種のツクサ科植物があり、世界では熱帯を中心に 41 属 650 種が知られている。ツクサ科植物は、花の寿命が短い上にもろいものが多く、押し葉標本で花形態を観察するのが難しいことから、分類が難しい植物群の一つとなっている。私たちは日本や東南アジアの植物を中心に調査・解析を進めることができたので、その成果を含め、最新の DNA 解析に基づいたツクサ科の新しい分類を紹介する。また、花を含む形態の多様性を示し、ツクサ科植物の多彩な世界を紹介する。

「シダ植物の無配生殖種における網状進化の解明と分類学的整理」

堀 清鷹（高知県立牧野植物園）

シダ植物には、二次的に有性生殖をやめて無配生殖と呼ばれる無性生殖を行っているものが少なくない。無配生殖種の子孫は親と遺伝的に同一（クローン）となり、形態変異は少ないと考えられる。しかし、実際は幅広い形態変異や遺伝的多様性がみられることがむしろ一般的である。オシダ科オシダ属 *Dryopteris* は、世界的規模で網状進化していることが知られているが、日本周辺のアジア地域ではとりわけ無配生殖種が豊富に進化し、その多くが連続的な形態変異をもつことによって、種間の差異が分かりにくくなっている。本講演では DNA 解析による最新の研究成果を紹介する。

「岩に生えるサクラソウの進化史・生態・保全」

山本将也（兵庫教育大学大学院学校教育研究科）

サクラソウ属は約 430 種からなる大きなグループで、北半球の多様な環境へ適応進化を遂げた植物群の一つである。日本には 14 種が自生し、東アジアから渡ってきた系統と北米を經由してきた 2 つの系統があると考えられている。しかし、種間の系統関係や列島内でどのように多様性を獲得したのかは明らかではなかった。また、ほとんど全ての分類群が絶滅危惧種に指定されており、近年は地域的な個体群の衰退が著しい。本講演では、DNA 解析に基づくサクラソウ属植物の系統進化や種分化機構についての研究成果、そして、日本のサクラソウ属の中で最も絶滅が危惧されているチチブイワザクラの保全研究について紹介する。

「モンゴル探訪記：大陸の水草を求めて」

志賀 隆（新潟大学人文社会科学系）

モンゴル国は東アジア北部に位置する内陸国である。同国のさく葉標本の集積状況は、その国土の広さに対して約 14 万点と十分な量とは言えず、植物のインベントリー研究は未だ成熟した段階には達していないのが現状である。このような中、韓国の国立樹木園（KNA）とモンゴル国立大とがモンゴル国内の詳細なフロア調査を 2016 年より開始している。発表者は、水生植物の専門家として 2017 年の夏以降、この調査に 3 回、計 2 か月参加してきた。本講演ではモンゴルの自然や野外調査の様子を写真を交えて紹介する。

「分子マーカーが描くパターンに耳を傾ける」

綿野泰行（千葉大学大学院理学研究院）

私が研究をスタートさせた当時、日本の植物分類学分野では遺伝マーカーを用いる環境がなかった。アイソザイムも残念ながらバンドの類似度といった phenetic な形質として扱われていた。修士では自力でメンデル遺伝マーカーを開発し、シダ植物の一孢子による遠隔地への移住と想定される遺伝的構造に出会った。それ以来、分子マーカーが描くパターンに魅せられてきた。この講演では、「マムシグサの一花序に付いた果実内の種子の父親分布」から最も大きな「ゴヨウマツ類のベーリング海峡を挟んだ大陸間のオルガネラ DNA の分布パターン」まで、私が気に入ったパターンを紹介し、そこから読み取れる生物学的現象について紹介する。

「植物誌から見てきた岐阜県の植物相における特徴」

高橋 弘（岐阜県植物誌調査会・岐阜大学）

2019年に刊行された岐阜県植物誌では、種内分類群を除いて2359種の自生維管束植物を記録した。全国の都道府県の中でも屈指のこの数は、岐阜県が日本海要素と太平洋要素、あるいは東日本要素と西日本要素が交わる地域にあることや、中部地方あるいは東海地方に固有な種も数多く分布することなどに依っており、それらの幾つかの植物を紹介する。

また、異種とされているキク科のオヤマボクチとヤマボクチや、明らかな亜種関係あるいは変種関係とされているヤマハハコとホソバヤマハハコなど、分類群の区別が不可能な植物が数多く見られることなどについても紹介する。

【開催形態に関する問い合わせ先】

開催形態の変更の有無については2020年12月14日（月）以降にお問い合わせください。

電話・ファックス：075-753-4145（授業等で不在場合があります。ご容赦ください）

メール：fuse_at_sys.bot.kyoto-u.ac.jp（_at_を@に置換してください）

日本植物分類学会第20回大会（オンライン）および2021年度総会のご案内

第20回大会会長（次期学会会長） 村上 哲明

日本植物分類学会第20回大会を、2021年3月8日（月）～3月10日（水）の日程で、オンラインにて開催いたします。大会の参加登録、発表申込および発表要旨提出の方法、さらには発表要領など、第20回大会の詳細情報については**2020年12月11日（金）までに、日本植物分類学会のHP(<https://e-jsps.com>)に掲載いたします。**こちらをご確認下さい。

今回のオンライン大会には、日本植物分類学会会員のみがご参加いただけます。大会参加費は無料といたします。ただし、ネット・セキュリティの関係で、事前に参加登録をしていただく必要があります。口頭発表の演者が会員に限ることは例年の通りです。大会参加の登録・発表の申込をされると同時に日本植物分類学会への入会手続きをお願いします。

なお、大会発表の申込の締切日は2021年1月18日（月）、発表要旨登録の締切日は2021年1月25日（月）を予定しております。

新型コロナウイルスの影響で、例年とは大きく異なる大会になってしまいますが、会員の皆様の参加を心よりお待ちしております。

【本会場（口頭発表、総会、授賞式、受賞記念講演）

全て、Zoom（Zoom Video Communications, Inc. の Web 会議・ウェビナーのシステム）を用いてオンラインで行います。Zoomは大学や高校のオンライン授業等で最も一般的に使われているものです。ソフト（アプリ）は不要で、インターネット環境さえあれば大会への参加が可能です。パソコンだけでなく、スマートフォンからでも発表や質疑応答もできます。

口頭発表の一人あたりの持ち時間は、例年通り、講演12分、質疑応答3分の計15分を予定しています。なお、質疑応答については、Zoomのチャット機能を活用するなどして講演時間の終了後も演者と大会参加者の間で継続していただけます。

一方、今回、ポスター発表と公開講演会は、開催いたしません。したがって、大会発表賞も、口頭発表のみが対象となります。

総会の議事については、ニュースレター2月号に掲載し、オンライン大会に参加できない会員の方からのご意見をいただけるようにする予定です。

【各種委員会（編集委員会、評議員会）】

こちらも全て、Zoom 会議システムを用いてオンラインで開催します。オンライン評議員会は、例年のように大会の前日ではなく、2021年1月中に開催予定です。詳細は、追って当該委員・評議員の皆様に直接ご連絡をいたします。

【日程】2021年3月8日(月)～3月10日(水)

3月8日(月) 午前・午後 口頭発表(主に大会発表賞エントリー者)

3月9日(火) 午前 口頭発表(大会発表賞エントリー者, 一般*)

午後 口頭発表(一般*)・総会・受賞講演・口頭発表賞授与式

3月10日(水) 午前・午後 口頭発表(一般*)

* オンライン大会の開催時間は、最長でも 8:30～18:00 の間に収めるつもりです。今回、ポスター発表を開催しない関係で、口頭発表数が多くなった場合には、一般の口頭発表を2つのセッションに分けて同時平行的に開催させていただく可能性があります。あらかじめご了承ください。

【問い合わせ先】

大会会長(次期・学会会長): 村上 哲明

事務局長(現・庶務幹事): 海老原 淳

〒305-0005 茨城県つくば市天久保 4-1-1 国立科学博物館植物研究部 内

E-mail: jsps20@e-jsps.com TEL: 029-853-8988

(お問い合わせには、できるだけ電子メールをお使いください。メールのタイトルは、「オンライン大会問合せ」として下さい。)

植物関連雑誌のタイトル紹介

和文誌編集委員 中田 政司

旧『植物地理・分類研究』第47巻に始まり、新和文誌『植物地理・分類研究』第66巻1号に引き継がれた本コンテンツは、今回の2020年11月発行No.79から『日本植物分類学会ニュースレター』に掲載されます。前回から収載分野は菌類、藻類、地衣類、蘚苔類、維管束植物に拡充され、著者とタイトルのみ掲載、ページ数は省略されています。

○利尻研究

〒097-0311 利尻郡利尻町仙法志字本町136 利尻町立博物館

<http://riishiri.sakura.ne.jp/Sites/RS/> (pdf ファイル閲覧可能)

第38号 2019年3月—大石善隆・山谷文人・佐藤雅彦: 利尻島南部オタダマリ沼で1970年代に採集された蘚苔類標本／川井唯史・クラチコバ・ニーナ・小亀一弘・阿部剛史・ガラニン・ドミトリー・四ツ倉典滋: 北海道北部および南サハリン日本海沿岸におけるフロラ

第39号 2020年3月—楠 祐一・佐藤雅彦: 北海道利尻島でエゾノヨモギギクを食べるツツミノガ2種の記録

○知床博物館研究報告

〒099-4113 斜里郡斜里町本町49-2 斜里町立知床博物館

<http://shiretoko-museum.mydns.jp/shuppan/kempo/kempo/>

第40集 2018年3月—野別貴博・眞々部貴之・稲村実穂・内田暁友: 2012年に羅臼町で採集した植物標本リスト

第41集 2019年3月—植村和彦・鈴木三男: 北海道津別町上里産の中新一鮮新世植物群／松下(宮野)和江・滝谷江美・鈴木三男: 望ヶ丘森林公園の植物相

第42集 2020年3月—片山 綾・田中優子・野別貴博・内田暁友: フレベの滝遊歩道周辺の植物リスト

○ひがし大雪自然館研究報告

〒080-1408 河東郡上士幌町字ぬかびら源泉郷48-2 ひがし大雪自然館

<http://www.ht-shizenkan.com/s/study/> (pdf ファイル閲覧可能, ただし発行後1年以内の号を除く)

第5号 2018年3月—乙幡康之: 北海道東部(十勝・釧路・根室)におけるツノゴケの分布／丸山まさみ: 大雪山国立公園、然別湖の水生植物相: 7年間(2011年～2017年)の変化

第6号 2019年3月—乙幡康之・斎藤 均・綿貫 梓: 北海道黒松内町で確認したクモノスゴケ(クモノスゴケ科, タイ類)／乙幡康之: 北海道サンル川上流域における蘚苔類

第7号 2020年3月—乙幡康之: 大雪山国立公園の蘚苔類チェックリスト／乙幡康之: 十勝平野に残存するミズゴケ属の生育地

○フロラ福島

〒970-8002 福島県いわき市平中平窪 1-16-3 薄葉 満方 福島県植物研究会

<https://sites.google.com/site/florafukushima/florafukushimana/list>

第 33 号 2017 年 12 月—薄葉 満: 福島県産水・湿地生植物新報知 8 / 片野伸雄・野中俊夫: 隠津島神社林の植生 / 須賀紀一・片野伸雄・鈴木浩一・野中俊夫・渡部秀哉・五十嵐 彰: 日山の植物 6 アカマツ群落・ミズナラ群落 (2) 及び特筆すべき植物 (種子植物) / 横山正弘: 福島県新産の苔類 2 種 / 根本秀一: 福島県新産の雑種 (1) / 薄葉 満: 福島県におけるホソイの初見および福島県植物誌 (1987) の記録について / 佐藤敏夫・遊佐 淳・根本秀一・伊賀和子: 相馬地方の植物 2 / 山内幹夫: 双葉郡浪江町高瀬川溪谷産シダの種名についての訂正 / 薄葉 満: 福島県の池沼見である記 V (猪苗代町金田)

第 34 号 2020 年 12 月—高田 順: 福島県裏磐梯小野川湖のホシクサ属植物 / 野中俊夫: 安達太良山鬼面山風穴地帯の植生・景観と通年温度変化 / 須賀紀一・片野伸雄・鈴木浩一・野中俊夫・渡部秀哉・五十嵐 彰: 日山の植物 7 日山の維管束植物リスト その 1 種子植物 / 根本秀一: 福島県で 2 例目のコハイゴケ (ハイゴケ科) をいわき市で確認

○秋田県立博物館研究報告

〒010-0124 秋田市金足鳩崎字後山 52 秋田県立博物館

<http://www.akihaku.jp/publication/report/report.htm> (pdf ファイル閲覧可能)

第 45 号 2020 年 3 月—津田 智・増井太樹・長尾彩加・津田美子・梅津一史: 男鹿半島寒風山における植物相

○秋田自然史研究

〒010-0873 秋田市千秋城下町 8-18 田中政行方 秋田自然史研究会

<http://akita-nathist.o.oo7.jp/mokuji.htm>

第 74 号 2018 年 11 月—高田 順: 秋田県及び近県の常緑性グミ類 (2) / 高柳春希: 秋田県湯沢地域におけるエゾタンポポと外来タンポポの生息分布について

第 75 号 2019 年 2 月—沖田貞敏: ツガルコウモリについての疑問 / 沖田貞敏: 秋田県植物分布資料 (12) / 菊地卓弥: ヤマジソとヒゲシバの新産地

第 76 号 2019 年 11 月—阿部裕紀子・脇坂良子・佐藤 隆: 秋田県真昼岳に産するモイワシャジン (キキョウ科) について / 高田 順: 秋田県産ヨモギ属の検討 (1) —県産既知種について— / 高柳春希: ゆざわジオパークの保全に関する研究: 水田生物の機能群ごとの個体数に対する景観的な要因の影響 / 高柳春希: ゆざわジオパークの保全に関する研究: 秋田県湯沢市に生息するオオハンゴンソウ属 (*Rudbeckia* spp.) の分布特性について

第 77 号 2020 年 2 月—高田 順: 秋田県産ヨモギ属の検討 (2) —葉や茎の形態観察— / 沖田貞敏: 秋田県のイワウチワについて / 沖田貞敏: 秋田県植物分布資料 (13) / 菊地卓弥: セダム 2 種

○山形県立博物館研究報告

〒990-0826 山形市霞城町 1-8 山形県立博物館

<http://www.yamagata-museum.jp/archives/memoir/> (pdf ファイル閲覧可能)

第 37 号 2019 年 3 月—山口 真: 紅花色素抽出における化学的アプローチによる簡易的抽出方法の検討

第 38 号 2020 年 3 月—山口 真: 紅花研究における黒田チカ資料と山形県研究者佐藤チセとの関連について

○群馬県立自然史博物館研究報告

〒370-2345 群馬県富岡市上黒岩 1674-1 群馬県立自然史博物館

http://www.gmnh.pref.gunma.jp/research/report_rese (pdf ファイル閲覧可能)

第 23 号 2019 年 3 月—鈴木 博・萩原博光: 玉原高原の変形菌

○茨城県自然博物館研究報告

〒306-0622 茨城県坂東市大崎 700 ミュージアムパーク茨城県自然博物館

<https://www.nat.museum.ibk.ed.jp/publications/2/index.html> (pdf ファイル閲覧可能)

第 21 号 2018 年 12 月—小幡和男・嶺田卓也・石井 潤・及川ひろみ: 土浦市穴塚大池の耕作放棄田における希少種の保全に向けての取り組み / 伊藤彩乃・今村 敬: 茨城県南西端でのツクバキンラン (ラン科) の分布の詳細 / 勝木 俊・日向岳王・渡辺雄司・磯部 亮・山川拓也: 茨城県桜川市の国指定名勝・天然記念物のサクラの種類 / 宮本卓也・萩原博光・鈴木 博・山本幸憲: 茨城県産変形菌類目録

第 22 号 2019 年 12 月—伊藤彩乃・小幡和男・岩槻秀明・上條隆志: 千葉県および茨城県におけるキタミソウ (ゴマノハグサ科) の新産地 / 栗原 孝・小幡和男: 茨城県久慈川およびその周辺の維管束植物相

○埼玉県立自然の博物館研究報告

〒369-1305 埼玉県秩父郡長瀬町長瀬 1417-1 埼玉県立自然の博物館

<https://shizen.spec.ed.jp/%E7%A0%94%E7%A9%B6%E5%A0%B1%E5%91%8A>

- 第 12 号 2018 年 3 月—須田大樹：関東地方におけるナラガシワの分布とその生育立地／木山加奈子・須田大樹・半田宏伸：埼玉県におけるタンポポヤンマタケ *Ophiocordyceps odonatae* の初記録
 第 13 号 2019 年 3 月—小川滋之：奥武蔵、蔵山の山頂平坦面にみられるヤエガワカンバ小林分の樹種組成と成因／須田大樹：埼玉県の暖温帯域の石灰岩地で見出されたリュウキュウマメガキ *Diospyros japonica*（埼玉県新産）について／上原 歩：埼玉県内におけるナガエツルノゲイトウの初記録

○小笠原研究年報

- 〒 192-0037 東京都八王子市南大沢 1-1 首都大学東京理工学研究科内 首都大学東京小笠原研究委員会
http://www.comp.tmu.ac.jp/ogasawara/annual_report.html (pdf ファイル閲覧可能)
 第 42 号 2018 年 5 月—大澤剛士・赤坂宗光・可知直毅：生態学的なプロセスを考慮した外来植物の管理優先順位付け地図作成
 第 43 号 2019 年 5 月—菅原 敬：小笠原の植物の進化を垣間見る～性表現の多様性をめぐって～

○神奈川自然誌資料

- 〒 250-0031 神奈川県小田原市入生田 499 神奈川県立生命の星・地球博物館
<http://nh.kanagawa-museum.jp/www/contents/1599725880823/index.html> (pdf ファイル閲覧可能)
 第 40 号 2019 年 2 月—伊藤寿茂・宮代 稷・小林 敦：江の島の潮間帯および潮下帯浅所の海藻相／藤吉正明・深谷玲奈・市川佳奈・小栗和也・室田憲一：秦野市名古木の水田に生育する絶滅危惧植物の記録／鐵 慎太郎：三浦市南部における 3 種の熱帯・亜熱帯性海岸植物の実生の生育状況
 第 41 号 2020 年 3 月—新田 梢・岩田健志・大西 亘・倉田薫子：神奈川県産の腊葉標本を用いたミズヒキの葉の斑紋変異の地理的分布

○横須賀市博物館研究報告（自然科学）

- 〒 238-0016 横須賀市深田台 95 横須賀市自然・人文博物館
<https://www.museum.yokosuka.kanagawa.jp/library/publication> (pdf ファイル閲覧可能)
 第 65 号 2018 年 3 月—水上真知子・青木清勝・田中和徳・中村洋一・平野 素・山室静子・山本 薫：天神島（横須賀市佐島）産ハマオモトの送粉者
 第 66 号 2019 年 3 月—山本 薫・鶴沢美穂子・内船俊樹：馬堀自然教育園のシダ類および蘚苔類
 第 67 号 2020 年 3 月—山本 薫・岩浪 創：31 年振りに発見された三浦半島産タキミシダ

○長野県環境保全研究所研究報告

- 〒 381-0075 長野市北郷 2054-120（飯綱庁舎）長野県環境保全研究所
<https://www.pref.nagano.lg.jp/kanken/johotekyo/kenkyuhokoku/hozen/index.html> (pdf ファイル閲覧可能)
 第 14 号 2018 年 3 月—石田祐子・中山 洸：長野県環境保全研究所飯綱庁舎自然観察路の植物相補遺 2／北野 聡、酒井今朝重、尾関雅章、樋口澄男：長野市戸隠みどりが池におけるミノリノフラスコモ (*Nitella mirabilis*) の自生確認／浦山佳恵：長野県の伝統食における野生動植物利用／石田祐子・尾関雅章・高野（竹中）宏平・大塚孝一・堀田昌伸：長野県における生態系被害防止外来種リスト補遺 I
 第 15 号 2019 年 3 月—高野（竹中）宏平・尾関雅章・佐藤光彦・三宅 崇・片桐千俣：長野県鍋倉山におけるナベクラザゼンソウのサイズ構造と 2018 年の開花結実、被食率およびそれらの空間分布様式／尾関雅章・栗林正俊：長野市飯綱高原におけるカラマツ高齢人工林の樹木成長／石田祐子・浜田 崇・尾関雅章：長野県環境保全研究所植物標本庫（NAC）および資料室の温度環境

○富山市科学博物館研究報告

- 〒 939-8084 富山県富山市西中野町 1-8-31 富山市科学博物館
<http://www.tsm.toyama.toyama.jp/?tid=100115> (pdf ファイル閲覧可能)
 第 42 号 2018 年 3 月—佐藤 卓・太田道人：富山県産裸子植物の分布の特徴／藤田将人・吉岡 翼・岩田朋文・太田道人：富山市山岳域自然調査報告（2017）
 第 43 号 2019 年 3 月—坂井奈緒子：富山県黒部ダム周辺のコケ植物相／佐藤 卓・太田道人：富山県に自然分布するモチノキ科植物の分布の特徴／藤田将人・増淵佳子・岩田朋文・太田道人：富山市山岳域自然調査報告（2018）／坂井奈緒子・吉岡 翼：富山県黒部市餓鬼ノ田圃に生育するコケ植物と湿原環境
 第 44 号 2020 年 3 月—佐藤 卓・太田道人：富山県に自然分布するナナカマド属とアズキナシ属植物の分布の特徴／藤田将人・吉岡 翼・岩田朋文・太田道人：富山市山岳域自然調査報告（2019）

○富山県中央植物園研究報告

- 〒 939-2713 富山県富山市婦中町上善田 42 富山県中央植物園

<https://www.bgtym.org/research/> (pdf ファイル閲覧可能)

第 24 号 2018 年 12 月—兼本 正：台湾産ホソバノキミズの染色体数（英文）／志内利明・高橋一臣：アオキの種子発芽と雌雄実生の開花特性／志内利明・魯元学・李景秀・管開雲・高橋一臣・中田政司：中国雲南省大圍山における *Begonia versicolor* の生息地と個体群に関する記録、特に耐寒性と分布様式について／神戸敏成・星野洋一郎・大原隆明：リュウキュウカンヒザクラの成長点からのシュートおよび再分化能を有するカルスの形成（英文）／東義昭・川住清貴・川窪伸光：富山県氷見市小境海岸で採集された漂流スゲアマモ／稲葉浩介・中田政司：日本産メタカラコウ属 4 種の核型（英文）

第 25 号 2019 年 12 月—志内利明：神通川上流の渓流帯に生育するツリガネニンジンの形態と種子発芽特性／志内利明・兼本 正・中田政司・王仲朗・馮寶鈞・管開雲・藤下典之：トウツバキの花粉粒の種類と品種間および生育条件による組成の相違（英文）／山下寿之：富山県中央植物園内における早咲きのサクラの開花日（2013～2019 年）／早瀬裕也：富山県新産のスズカマムシグサ（サトイモ科）／高橋一臣・吉田めぐみ：立山産オクヤマザサの花粉稔性と小穂の形態、葉の表皮構造—推定両親種との比較—／吉田めぐみ・高橋一臣：富山県立山棲線部の維管束植物フロラ調査／兼本 正：沖縄島におけるセイタカアワダチソウの現状／中田政司・川住清貴・藤井聖子・中村俊之・山ノ内崇志・角野康郎：日本に野生化したラージパールグラス（アゼナ科）の染色体数（英文）／兼本 正：琉球列島産オキナワスズメウリの染色体数（英文）／志内利明：神通川上流に生育する渓流型ツリガネニンジンの核型（英文）

○富山の生物

〒937-0857 魚津市三ヶ 1390 魚津水族館内 富山県生物学会

<https://toyamaseibutu.mizubasyou.com/zassi.htm>

第 58 号 2019 年 3 月—氷見栄成・佐藤 卓・杉田久志・松村 勉・金子靖志・海津 雄・佐伯廣行・福田有希子：富山県野積川流域の森林構造／早瀬裕也：富山県産テンナンショウ属マムシグサ群植物の変異／佐藤 卓：富山県美女平ブナ林のモニタリング調査結果（2002～2018 年）／佐藤 卓：富山県美女平ブナ林のモニタリング調査結果（2002～2018 年）／長井幸雄：黒菱山の植物相の概況

○石川県白山自然保護センター研究報告

〒920-2326 石川県白山市木滑ヌ 4 石川県白山自然保護センター

<http://www.pref.ishikawa.lg.jp/hakusan/publish/report/index.html> (pdf ファイル閲覧可能)

第 45 集 2019 年 3 月—梅典雅・野上達也・平松新一・後藤理子：白山（石川県域）におけるミヤマウイキョウ (*Tilingia tachiroei*) の分布と生育地の状況／八神徳彦・野上達也・伊丹えつ子・小谷二郎・野崎英吉：石川県のブナ科樹木 3 種の結実予測とツキノワグマの出没状況, 2018

第 46 集 2020 年 3 月—八神徳彦・野上達也・伊丹えつ子・小谷二郎：石川県のブナ科樹木 3 種の結実予測とツキノワグマの出没予測, 2019／北市 仁・八神徳彦・内藤恭子：秋期の里山林における自動撮影カメラによるツキノワグマ撮影回数とブナ科樹木 3 種の結実との関係／山崎純治・八神徳彦・柳井清治：白山室堂平における植生復元工事後の回復状況

○石川県立自然史資料館研究報告

〒920-1147 石川県金沢市銚子町 441 石川県立自然史資料館

https://www.n-muse-ishikawa.or.jp/?page_id=152 (pdf ファイル閲覧可能)

第 8 号 2018 年 3 月—勝羽芳直・北村俊平：自動撮影カメラを用いた鳥類による果実食の定量化：日本における外来植物ヨウシュヤマゴボウの事例研究

第 9 号 2019 年 12 月—松山佑希子・北村俊平：日本産キジムシロ属の種子散布者としてのノトマイマイの有効性：種子散布距離と発芽への影響／任 静怡・北村俊平：セイタカアワダチソウの開花フェノロジーがハナグモの空間分布に与える影響

○福井市自然史博物館研究報告

〒918 8006 福井県福井市足羽上町 147 福井市自然史博物館

<http://www.nature.museum.city.fukui.fukui.jp/shuppan/kenpou/kenpou.html> (pdf ファイル閲覧可能)

第 65 号 2018 年 12 月—中村幸世・吉澤康暢：足羽山柄鏡塚古墳におけるカンアオイの分布とギフチョウの卵塊数の記録

○ため池の自然

〒467-8610 名古屋市長久手市二ノ池湿地の地形と植生／下田路子：様々な環境変化に伴うため池の水草相の変化—東広島市西条町寺家地区における事例—／山崎真嗣：鈹質土壌湿原において、モウセンゴ

ケ *Drosera rotundifolia* が繁茂している際に一緒に生えている植物は何？／飯尾俊介：名古屋市版レッドリストに現れた才井戸流の植物／小鹿 亨：カワムユレモを豊田市前林町立入池で観察

○南紀生物

〒646-0005 和歌山県田辺市秋津町 965 土永浩史方 南紀生物同好会会誌編集部

<http://nankiseibutu.jp/mokuji.html>

第 60 巻第 1 号 2018 年 6 月—山本好和・溝口恵敬・高萩敏和・坂東 誠：紀伊半島産の興味ある地衣類Ⅶ／田中 憲蔵：マテバシイ *Lithocarpus edulis* の葉の形態異常／山本好和・平山吉澄：兵庫県相生市羅漢の里の地衣類 (2)

第 60 巻第 2 号 2018 年 12 月—服部 保：紀伊半島の照葉樹林／山本好和・加納康嗣・岡田純二・小川毅郎：三重県津市大洞山の地衣類／山本好和・盛口 満・佐藤寛之・杉本雅志・杉本まゆみ・多和田 匡：沖縄県名護市大浦湾岸の地衣類／山本好和・高萩敏和・坂東 誠・河合正人：京都府産の興味ある地衣類Ⅲ

会費納入のお願い

会計幹事 厚井 聡

2021 年度 (2021 年 1 ～ 12 月) の会費 (前納制) を、2020 年 12 月末までに納付してください。

- ・同封された振替払込書をご利用ください。
- ・本号封筒の宛名ラベルに「納入済み年度」と未納会費 (2021 年度分を含む) を表示しています。2021 年度分まで納入済みになるよう、「会費」に表示されている金額をお振込みください。「会費」に「自動引落」と表示されている場合、自動振替となります (引落予定日：2021 年 2 月 26 日)。
- ・4 年以上会費を滞納されている方は、規約第 10 条 (2) に基づき除名を行っております。除名となりますと、総会ならびに本誌にて除名者としてお名前を掲載することになります。

ご不明の点があれば、会計幹事までご連絡ください。健全な学会運営にご協力いただきますよう、お願い申し上げます。

書評

岐阜県植物誌 Flora of Gifu, Japan

岐阜県植物誌調査会 / 編著 文一総合出版 / 発行 ISBN : 978-4-8299-8806-0

定価：本体 12,000 円＋税 A4 判 968 ページ 2019 年 8 月 25 日

国立科学博物館植物研究部 加藤 雅啓

日本の植物誌は全国版のほか、県ごとの地域版が相次いで出版されて、ほぼ全体像をつかんでいるといえる。この度、本著が世に出て、日本の中心に位置する岐阜県の植物相を手の中に入れることができた。これによって、日本の植物相をシームレスにとらえることができるようになった。出版に携わられた関係者の皆さんのご尽力に敬意を表したい。

本著は 900 ページを超える力作である。表紙を開けるとすぐカラーの口絵が出てくる。高山帯植生、亜高山帯植生、冷温帯植生／暖温帯植生に続いて、岐阜県に因む植物、太平洋要素植物、日本海要素植物、西限分布植物、東限分布植物、東濃湿地、希少種の項目に分けられて、美しい植物や植生を 32 ページにわたって載せている。これを見ているだけでも楽しい。続いて、口絵に対応するように岐阜県の森林植生が解説されている。(12 ページにつづく)

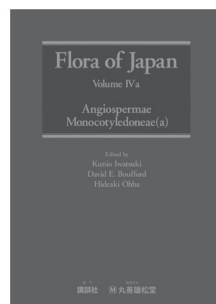


Flora of Japan, Volume IVa

岩槻邦男 / D.E.Boufford / 大場秀章・編

A4・448頁・本体40,000円（税別）

ISBN 978-4-06-154607-3



「Flora of Japan」シリーズ最終巻。IVa巻では、単子葉植物のうち
ガマ科からイネ科・カヤツリグサ科までの15科を記載します。スゲ属
は帰化種も含め、288種に及びます。

「Flora of Japan」シリーズ（全4巻・8分冊）について

5,500 種にのぼる日本の野生植物（シダ植物および種子植物）について、分類学的情報を英文書として編纂するシリーズです。大井次三郎『日本植物誌』（1953 年刊、英訳版は 1965 年刊）以来の集大成で、新たに南千島、小笠原諸島および琉球列島を含め、日本全域の情報を網羅します。植物情報国際機構（IOPI）の『地球植物誌』構想で定められたスタイルに準拠した記述内容は画期的で、大学・研究機関・バイオ関連企業に必備の図書になっております。植物研究者にとって参考書として欠かせません。

「Flora of Japan Volume IVa」目次

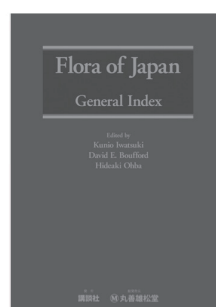
Typhaceae / ガマ科 / 角野康郎 **Pandanaceae** / タコノキ科 / 宮本旬子・岩槻邦男
Sparganiaceae / ミクリ科 / 角野康郎 **Potamogetonaceae** / ヒルムシロ科 / 角野康郎
Zannichelliaceae / イトクズモ科 / 角野康郎 **Cymodoceaceae** / シオニラ科 / 角野康郎
Najadaceae / イバラモ科 / 角野康郎 **Zosteraceae** / アマモ科 / 角野康郎
Scheuchzeriaceae / ホロムイソウ科 / 角野康郎 **Juncaginaceae** / シバナ科 / 角野康郎
Alismataceae / オモダカ科 / 角野康郎 **Hydrocharitaceae** / トチカガミ科 / 角野康郎
Triuridaceae / ホンゴウソウ科 / 大橋広好・邑田仁
Poaceae / イネ科 / 秋山忍・池田博・茨木靖・大場秀章・木場英久・支倉千賀子・米倉浩司
Cyperaceae / カヤツリグサ科 / 勝山輝男・星野卓二・堀内洋・正木智美・路川宗夫

Flora of Japan, General Index

岩槻邦男 / D.E.Boufford / 大場秀章・編

A4・240頁・本体12,000円（税別）

ISBN 978-4-06-521434-3



「Flora of Japan」シリーズ全4巻・8分冊の総索引です。
学名索引に加え、和名の安定性に着目して和名索引も作成し
ました。シリーズがより使いやすくなります。

「Flora of Japan General Index」目次

「学名索引」

約 32,000 項目の学名を掲載。正名を立体、異名をイタリック体で示しております。

「和名索引」

各分冊には付いていない索引巻オリジナルのものです。種の和名約 10,000 項目をローマ字表記します。

発行 講談社 総発売元 **MARUZEN-YUSHODO**

【ご購入お問い合わせ】 TEL 03-6367-6132
丸善雄松堂株式会社 卸営業部 FAX 03-6367-6201

本書はさまざまな方々が直接、間接にかかわって一致協力して結実したものであるが、担当した分類群の多い荻山恒弘氏・高橋弘氏をはじめとする岐阜県植物誌調査会のメンバーと協力者の40名が分担した。察するに、企画段階から調査・標本採集、編集に至る一連の作業には困難が待ち受け、必然的に多大な手間暇がかかったことだろう。こうして労作が出来上がり、日本植物相を理解するうえで貴重な基礎資料となった。日本の植物に強く興味をもっておられる皆さんがお手元に置かれて活用されるよう切に期待したい。出来立てほやほやの1冊を同調査会会長の高橋弘氏から出版直後いただいていた。すぐにも書評を書くべきだったが、そのままにしておいてしまった。ここにお詫びかたがた、いつも以上に心を込めて本書を推薦したい。

ホームページ <https://e-jsps.com>